平成２５年１月１日　　日本ボーイスカウト北海道連盟

日本ボーイスカウト北海道連盟だより　１４５号

斧の響き

〔第５４回全道スカウティング研究協議会　記念講演録〕

子どもたちに夢と可能性を提供する指導者の責務
～情熱と使命感をもって～

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
指導者養成委員長・副コミッショナー
理事　　村田　禎章

《講師挨拶》

話が特に上手なわけではなくよくわからない関西弁を操りますので、眠いのに眠れないという生き地獄をさせないように、なんとか努力は致しますけれども、眠くなったら寝ちゃってください。辛い思いをしてまでスカウティングをやる必要はありません、とか言いながら私は毎日辛い思いをしながら活動を続けています。

私は現在、日本連盟の指導者養成委員長、副コミッショナーの肩書がありますが、７年前にアダルトリソース委員会からトレーニング委員会に替わった時に、最後のアダルトリソース委員長を務めていました。その時、アダルトリソースの推進をしていく中で、どうしても訓練の体系が世界スカウト機構のアダルトリソース方針と日本の訓練体系が合わない。日本連盟としてはアダルトリソースを導入するのだと決めた以上は、トレーニングの仕組みを変えると決め、次のトレーニング委員会で三次案まで検討しましたが成案となりませんでした。

日本連盟が公益財団法人になり、理事会が直接運営や教育面も司ることになり理事などの役員が交替して新しい組織のもと、私に指導者養成を担当すれということになって新指導訓練体系を作りました。

《新指導訓練体系の目指しているもの》

＝定型訓練と定型外訓練＝

指導者の訓練というのは「定型訓練」と呼ばれる、ボーイスカウト講習会、ウッドバッジ研修所、ウッドバッジ実修所の 三つの形が定められた訓練があり、日本連盟がこの形でやりなさいと決めたものです。

「定型外訓練」は、主に研修という言い方をしています。

野外活動研修会、野営法研修会、団委員研究会などで、今回の全道スカウティング研究協議会もそうですが、各県連盟なり主催者がカリキュラムを作って実施することができる“集合型の訓練”です。

訓練というのは、皆さんが一同に会して、講師とかトレーナーが出てきて話をする“集合型の訓練”で、行うものだという概念が植えつけられてしまっている。

個別の自己学習とか、個別支援とか、そういったものについてはあまり重要視されてこなかった。また重要視はしていても、実際にはなかなかそれをシステム的に実施することができていなかった面があります。

ところが、よく考えてみたらウッドバッジ実修所出たから一人前か。ウッドバッジ実修所を出た指導者が隊長をやっている隊は完璧か。ボーイスカウトでの完璧とはどういうことかは別にしまして、本当にいい隊が出来ているのか。いいプログラムが出来ているのか。決してそうではないですね。

例えば、野球の指導者を一定のレベルまで育てるのに十年と言われているが、ボーイスカウトの指導者は、なかなか十年で一人前になりません。それだけ難しいのです。
ある人が「会社経営よりボーイスカウトの団を経営する方が難しい」と言っていました。
会社経営は給料を払っていますから「これをすれ」と言えばしますが、ボーイスカウトは給料を払わず本人のボランティア精神に委ねていますから「これをすれ」と言っても「なんでせなあかん」と言われたら終わりです。「私はその日は仕事が忙しい」とか「家族、家庭が」とか・・・
その中で、ではどうすればいい指導者が育つのか。

＝一番大事な事は「情熱」と「使命感」＝

一番大事な事は、「情熱」です。その人のモチベーションが高いかどうか、内的動機が高いかどうかです。「情熱」と「使命感」があるかどうかが、まず第一です。
どんなに実修所を出ていても、やろうとしなかったら何にもならない。トレーナーであっても、やろうとしなければ何にもならない。
自分が学んだ正しいスカウティングを本当にスカウト達に提供できるかどうかです。
訓練には「知識・技能・心構え」三つの領域があります。

「知識：知らない人には知識を与え、勉強してもらえればいい。」
「技能：出来ない事は出来るように練習してもらえばいい。」
「心構え：知っているのに出来るのにやらない人には心構えを変えてもらう。」

これがトレーニングの基本的な考え方です。
現場で隊活動をしている時に、例えば班長にしてもそうですね。
知識もあるのに、技能もあるのに、班員をまとめようとしないとか、やろうとしない。これは、その子の心構えを変えないといけないわけです。
これはボーイスカウトの訓練だけではない。すべてに、おそらく日常の仕事でも役に立つ事だろうと思います。

＝ボーイスカウトの究極的な目的に向けて＝

ボーイスカウトの究極的な目的というのは、「よき社会人を育てましょう」「よき社会人となって社会に出て他の人の役に立つことによって社会に幸福感を味わってもらいましょう」「そして幸福な人生を歩みましょう」ということです。
そのため、「知識と技能と心構え」というのは、スカウトみんなに共通に必要なものなのです。
社会に出た時に、その心構えを持って社会のために奉仕する、まずは職業を通じた社会貢献をする、余力があればボランティアの活動をする。そういったことを子どもの頃から身につけていく。
「この運動で子どもたちに体験をさせていくことによって、社会に出た時に大きい事は出来なくとも小さなことからコツコツとやるロウソクの炎の様な人になるように育む。普段は、電気がついて明るい時にはロウソクの炎はあまり目立たちませんが、周囲が暗くなってくるとロウソクの炎は非常によく目立つようになって来ます、こういう人達になるように育てるのだ」と、私が実修所に入った時の所長が言っていましたが、未だにその言葉を忘れてはおりません。
そういう意味では、少し積極的に自分の持てる力を周囲のために活用できる少年を育てていこうということです。
いま理念ばっかりが先に走っていないでしょうか。プログラム関係でボーイの部門では技能章関係を少し変える、上進時期の変更も考えています。
このように改革を進めているのは何かというと、いまお話したように「スカウトがスカウトらしい活動が出来るにはどうしたらいいのか」そのため、まず先に手を打ちましたのは訓練体系を変えたことです。

《インサービスサポートの充実》

インサービスサポートの充実を皆様方にお願いしています。
インサービスというのは、任務中のという意味です。任務中の支援をどうするかということを、本当は一番先に考えなければならなかったのです。
何故か。スカウティングはどこで誰がやっているのでしょうか。現場のスカウト達がスカウティングに取

り組んでいるというのは、隊長さん、もしくは隊指導者と子供達との間で行われているのです。
　地区も県連盟も日本連盟も、この現場で隊指導者とスカウト達がやっているスカウティングをうまく活かせるためにあるのです。
　今一番問題なのは日連、県連というサービス機関に人はいるが、一番スカウティングをやっている、スカウティングそのものを具現化している現場に適切な指導者が少ない。これが決定的な現在の日本のボーイスカウトの問題点なのです。

＝スカウトのプログラムとは＝

　青少年がこの運動に取り組むというのは、世界プログラム方針で、『スカウト達がスカウトとして行うことすべてをプログラムと言う』（世界スカウト機構「基本原則」）と明確に示されています。
　具体的には、“ちかい”と“おきて”の実践基盤とした活動であるとか、彼らが興味を持ってやる事、彼らがスカウティングのために何か努力する事。そういった事はすべてそれがプログラムなのです。
　個人で、自分の家で取り組むこと。死してのちもスカウトである、死ぬときまでスカウトであるという歌がありますけど、要するに一旦スカウトになったら、することみんながスカウティングなのです。
　子ども達がユニフォームを着て奉仕活動をします。ユニフォームを着ている時はゴミを拾い、電車で席を譲ることをするが、ユニフォームを脱いだ時にもそれが出来ないといけないのです。
　だからユニフォームを着ている時は練習なのです。スカウトの本番というのはユニフォームを着ていない、日常生活や学校生活での実践が本番なのです。
　私はいつも自分の団のスカウト達が奉仕活動をやってる時に「お前らそれユニフォーム脱いでも出来るんか。ユニフォームを脱いで今やっていることができたら、ユニフォームを着ていない時に今やっていることが出来てこそ本当のスカウトなんだよ」と言っているのですが、活動の時だけ云々というのはやっぱり良くないです。それはやはりスカウト達の心構えをしっかりと鍛えていってやらないといけない。
　そう言うと、スカウトに向って「“ちかい”とは何か」「“おきて”とは何か」「信仰とは何か」、話をしたがる指導者が多いのです。実際の活動を伴わないで、こんな話を多くするから隊長が嫌われる。
　中途退団の多くの原因は隊長が嫌い。何故か。面白い事を教えてくれるわけでもない。何か自分が役に立ったというスキルを教えてくれるわけでもない。楽しいゲームをやって自分が成長したという実感を与えてくれるわけでもない。何か人の役に立つことを具体的なアクティビティを教えてくれるわけでもない。ただ顔を見たら、“ちかい”と“おきて”にあわせてそんなことでどうするんだという説教ばかりされて、挙句の果てには家に仏壇がないのか、なんでや、明確な信仰を持てと・・・。
　こんなことを中学生にグタグタ言ってもしょうがないのです。

＝清規三事＝

　『清規三事』（ちんきさんじ／しんきさんじ）はご存じですか。初めて日本に指導者訓練を持ち込んだ佐野常羽という元海軍少将の方がいらっしゃいます。
　この方が日本人で初めて英国のギルウェル実修所に入り帰ってきて指導者訓練をやるのですが、向こうでレポートを出す時に次の三つのことを述べられた。

　一つは「実践躬行」。実際に働け動け、アクティビティです。活動をしなさい。奉仕活動であろうと、自分自身のゲームであろうと、なんでもかんでもまず自分で動け。スカウト達が動くことです。
　次に「精究教理」。教理、いわゆるスカウティングの教えをしっかり研究する段階。
　そして、最後に「道心堅固」。スカウティングを行う決意。の三つです。
〔注：スカウトハンドブック 386 頁を参照〕
　佐野 常羽が、一番初めに「実践躬行」まずやれ、活動しろと言っているのです。
　ところが今、全国の指導者の動きをよく見ると、活動をあまりしていない。古い方はご存じかもわかりませんが、今無くなりましたが、カブで特別隊集会という一話完結その日だけという集会をやっていました。

＝一話完結特別隊集会でよいのか＝

　今、ボーイのプログラム見ると一話完結特別隊集会がものすごく多いのです。この特別隊集会が １０ 回くらいあって年間計画だと言っている。ですから班長訓練も、班集会もする必要がないのです。必要がないというよりも、必要が無いようなプログラムになっているのです。

新しい指導者訓練体系で「ウッドバッジ実修所プログラムトレーニング」というのを行い、参加者が今やっているプログラムをグループで論議していろいろこんな問題があるとか、プログラム的な問題を話し合ってもらう。

いきなりグループで自分のプログラムを前に出して、色々そのプログラムの問題点であるとか、こうしたい希望とかそういうのを話し合ってください。それをチューターがレポートに書いて、後のセッションでは全部それに加味するように組み替えるのです。

その時に出てくるプログラムは、一話完結がほとんどなのです。中には１００キロハイクがありました。ボーイのプログラムですよ。１００キロ歩くのに、早く歩く人で時速５キロです。２４ 時間休憩しないで歩かないと目的地に着かない。小学６年生にこんな活動を課して次に来いと言って来ますか。もう堪忍、ボーイスカウトいらん、やめるっ！ということになるのではないですか。

これは何かというと、大人の自己満足なのですね。うちの隊は１００ キロ歩きよるねん。大人が大人の世界で自慢するために子どもをネタに使うなと言いたいのです。

＝「子どものニーズに合った」とは・・＝

このようなプログラムは子どもたちにとって無理ではないかと言うと、子ども達のニーズに合ったプログラムだと言われる。

ニーズは必要なのですがベーデン・パウエルは、ニーズの通りにプログラムをやらせるとは言ってない。『ニーズを基盤とした』活動、あくまでも基盤です。

その通りやらせるということではありません。それはスカウト達がやりたいことをやれと言ったら、スカウティングではなくなる可能性があるからです。

そこでスカウティングとは何かという話です。スカウト達が自分達でやりたいということに基づいていろんな活動をすることは非常にいい事なのですが、それだけで彼らの成長を促すというのは、彼らは経験則でしかものを言いませんので非常に難しいのです。

今度はそのニーズを刺激してやらないといけないのです。ニーズを刺激するというか、ニーズを基に彼らが取り組んだらいいものを作り上げていってやらなければならない。また彼らが作ったような気になるようにサポートしてやらなければならないということです。

〔参考：「スカウティングにおける活動それ自体は、青少年にとって楽しく魅力的であるように、彼らの興味とニーズに基づいていなければならない。活動は、明確に定義された教育目標に留意して考え出されなければならない。活動は、適度な努力目標を備え、青少年から有益であると認められねばならない。長い時間をかけてバランスのとれた様々な活動が提供されねばならない」
〔世界スカウト機構～スカウティングの本質的特徴〕

＝子どもたちの参画＝

ボーイスカウト部門で言うと、通常、班長訓練⇒班集会⇒隊集会という流れで活動が行われるのですが、隊集会というのは班集会をしないと隊集会が面白くならないような隊集会を組んでおかないといけないわけです。

先ほど述べた１００キロハイキングは、ただ体を鍛えるだけという話なのです。そうなると、子ども達が隊集会には参加をするかもしれないけれども、隊集会に至るまでのすべてのプログラムに参画したという意識がなかなか得られないのです。

実修所のプログラムトレーニングでは３泊４日でプログラムの事を徹底的に考えてもらうのですが、参加させるためのプログラムは作れるんですが、子ども達に最初から個人としての自分がこの隊集会に至るまでに参画していくというプロセスを作ることが出来ない指導者が非常に多い。そこを今直そうということでプログラムトレーニングというのを作ったのです。

小学６年生から中学３年生までの少年達が、隊集会に向って自分の役割を考えさせて参加させるプログラムを提供することをトレーニングするのです。

子どもたちに言うのです。「君達一人でも欠けたら、この隊集会はうまくいかないのよ」と。でも面白くなかったら行きません。

本人が心の底から「俺、これに行くわ」とならないといけませんよね。この隊集会に行くわ、この班集会

に出ないといけないと思わせるのは、自分の意見とか、自分が何か知恵や工夫をその隊集会のために出したプロセスがあるからです。
皆さんも例えば、この研究集会をするのに、準備の最初段階から企画や準備からとスタッフとして関わってきた人が、当日「行かない」というわけにいかないでしょ。「あんたこの集会来てくれんと、この集会うまい事いかねん」「なんでやねん」って思いますでしょ。

子どもたちの参画というのは、スカウト達が一から自分達の隊の運営に参画する、そして自分達が面白い隊集会をやり、面白い活動をやって自分達が成長するということです。
この動きが発展して、いろんな隊が集まって子ども達はこんなことをやりたいと言っているから県連でどうしましょう、日本連盟でどうしましょう、だからジャンボリーのプログラムどうしましょうという話にならないとダメなのです。そうしたら子ども達の意思が日本連盟まで到達して、子ども達の意思を実現するために日本連盟の政策打たれる事業が行われるというのが、青少年の参画という意味です。
子ども達がやりたいことを出来るようにサポートしてあげるのが大人の仕事です。子供達をサポートする指導者をサポートするのがまずは団委員会です。団委員会の出来ない事をサポートするのが県連盟であり、地区です。県連盟の単位ではボリューム的に難しい事とかというのを日本連盟が本来やるということです。
青少年、子ども達が自分達の隊の活動、自分の個人の能力を持って班に貢献する、そして隊の活動に参画をしていく。
いろんな知恵を出して参画するというプロセスが増えるプログラムを作っていかないと、この運動はただ単に野外活動の集団になってしまいます。

＝ボーイスカウトは斥候術＝

私は、団委員長をしていますので、スカウト募集をしますが、ボーイスカウトの説明は難しいです。
ボーイスカウトはどんな活動をするんですか。「キャンプ行きますよ」。〈キャンプだったら、うち家族で行きますよ〉。違うと思うのだけど、スカウトキャンプというのをご存じない方はオートキャンプもキャンプです。学校からもキャンプに行きますし、だからキャンプはよろしいです。
「ハイキングをしますよ」。〈この間、お弁当を持って近くの公園に家族でハイキングに行きました〉。
〈他に何するんですか〉。「手旗とか、ロープワークとか」〈はぁ、やめときます〉と。大体そんなもんです。
要するに、僕たちは野外活動だけをやっているわけじゃなくて、斥候術をやっているんですよ。
スカウト教育法７つの要素の中に『シンボリックフレームワーク（象徴的枠組み）』というのがあります。

〔参考：スカウト教育法７つの要素〕
◇ ちかいとおきて　◇ 行うことによって学ぶ　◇ 小グループでの活動
◇ 象徴的枠組み　◇ 個人の進歩　◇ 自然の中での活動
◇ 成人の支援

「シンボリックフレームワーク」というのは、私達は斥候術を基にした活動をしますよ、という枠組みでやりますよということなのです。単純に言うと軍隊ごっこの軍事的な部分を偵察の技術を使って遊びましょうという話なのです。
だから、制服もシンボリックフレームワークの一つと言っているのは、なんとなくやっぱり軍服に近いような服を着ていますよね。
要するに、そういう斥候術を使った枠組みで遊びましょうということですから、そういった事をプログラムの中に考えていったらいいのです。
ボーイ部門で観察と推理と言われるのは本来、偵察をする人達というのは、例えばここに焚火の跡があったら、足跡数、焚火の跡で何人くらいの敵兵力がここにいたかというのをチェックします。こっちからどっちの方に足跡が続いているから、こっちの方に何人くらいの兵力が移動している、そうしたら、あっちの方には何かあるから、あの山を越えて迂回しているか、だから多分あの山ならこの兵力なら越えられないから迂回できないから、向こう側で待ち伏せしていたら勝てるよ、という情報を流すわけです。
それは通信ですね。その情報を早く伝えるために通信です。今は携帯電話とか無線機がありますけど、当時はハト飛ばしたとか何かの方法を使ったのです。当時から手旗があったわけではありません。手旗は有馬

良橘という海軍の人が考え出した技術なんです。日露戦争ぐらいに作られた技術です。そういったものを基本に考えると、例えば忍び寄りの斥候術が遊びになっているかどうかなのです。

すべてのプログラムをそうしなければいけないと言いませんが、基本は班という一つの活動、パトロール。パトロールというのは、パトロールカーのパトロールで偵察隊、巡察。

班はパトロールだというのは、班というのは常に何かの情報を収集して歩いて、分析しないといけない。ボーイ部門のプログラムの基本です。

そこからいろんなゲームとかを考えていかないと、たんなるキャンプ屋になったり、たんなるハイキング屋になってしまう。その中で、班の中の人間関係であるとか、日常の活動を手に入れた事とか、推理力とか、そういうのが地域の役に立つということになるのです。

日本連盟コミッショナーは、２４年度に全国の県連盟コミッショナーの皆様に全国の各隊のプログラムを調査して、本来のスカウティングらしい特徴を活かしたプログラム展開が出来るように支援策を講じたアクションプランをやってくださいとお願いしています。

特に、ボーイ部門を見てくださいとお願いしました。

この中で「プログラムを調査指導支援する観点」として、次の事を書いてありますので紹介します。

① スカウティングは野外活動を行うためだけの運動ではなく、また奉仕活動を行うためだけの運動でもない。「スカウティング」というジャンルの教育運動であり、その運動を実施するための重要な方法が「野外での生活術」「野外での各種技能」である。いまこそ、スカウティングの本質である「斥候術を模したプログラム」の展開を推進すべきである。

② 特に必要なことは、指導者がスカウトスキルを活用したプログラム企画ができること。そして、企画されるプログラムの方向性はあくまでも「スカウティング」の方向でなければならない。

③ そのためには、「スカウティング」とはどのような考え方でプログラムを企画、推進するのかということを十分に全国に啓発する必要がある。

④ スカウト人口の減少は少子化や経済問題など複雑な社会的理由が影響していると思うが、少なくとも我々が解決できる「プログラムの充実」に取り組む必要がある。

先ほど申し上げましたように一話完結型のプログラムが多くなっており、体力勝負とか、子ども達が参画した意識があまりないプログラムになってしまっている。

要するに、ゲームセンターに行くのと同じです。班集会も行われず、隊集会が行われているその日、その時間に、時間が空いているから行こうか。行ったら、今日何人来よった。班長来とらんのか。じゃ適当にじゃんけんして２チームに分かれてやろうかなんて言って。これでは全然班活動じゃないですね。これはスカウティングではないですよね。

＝スカウトスキルを活用したプログラム企画を＝

特に必要な事は、指導者がスカウトスキルを活用したプログラム企画が出来る事。そして企画されるプログラムの方向性は、あくまでもスカウティングの方向でなければならない。そのためには、スカウティングとはどのような考え方でプログラムを企画推進するのかということを十分に、全国に啓発する必要があります。

スカウト人口の減少は少子化や経済問題など複雑な社会的理由が影響していると思いますが、少なくとも我々が努力すれば解決できるプログラムの充実に取り組む必要があります。

要するに、今はやっぱり少子化ですから、いたしかたない面もあります。私の職場のエリアの市は小さい市で、人口２万５千人くらいの街ですが平成２３年度の新生児の出生が１３７人。この前、市長と話していたら保育所の統合も考えている。１３７人のために年間５億円もかかる保育所を維持していられないから、どうにかしないといけないと言っていました。そういう少子化の問題はあります。そして土地が安くなってきましたので都市部に人が集中し田舎の方では特に子どもが減ってきているという現状。そして、経済問題というのは何かというとリストラであるとか、ワークシェアによって収入が非常に下がっているといった事、例えば月２千円か３千円の活動費が家計に負担になっている事情もあります。私の所の県連で調査をしましたら、お父さんが仕事を失ってボーイスカウトを辞めますというのが各団に一人はいるという報告が来ています。

≪事例≫

ボーイ隊で神社の境内の清掃を行うというプログラムを実施する場合、多くの隊では指導者がスカウトを引率して神社に連れて行って、指導者監督の下で清掃奉仕をして帰ってくるという状態ではないでしょうか。要するに、「神社の清掃に今月は行くぞ、みんな何月何日ここに集まれ」で集まって、隊長が連れて行って、「掃除しろ」って言って用意したゴミ袋にゴミを集めたら分別して、「じゃ今日はご苦労さん、いい奉仕活動だった」。そんな集会が多いのではないでしょうか。別に悪いとは言いませんが心当たりのある方いるのではないでしょうか。

ちょっとひねったらスカウト達が食いつくようなプログラムになりませんか。次のような想定文を提示したらどうでしょうか。

> 最近、歴史あるこの町を長年守ってきた神がおわす聖域が何者かによって汚されつつあるという情報を入手した。そこで「ちかいとおきて」を遵守する諸君に任務を達成してもらいたい。諸君の任務は次の通りである。
>
> 1　聖域まで安全かつ最短の経路を辿り、移動中に観察記録を作成し隊長に提出せよ。
>
> 2　聖域を発見したら、１時間以内で汚されつつある聖域を神のおわす地にふさわしいものにする作業を行うこと。
>
> 3　作業終了後、どのように汚されていたかを、何によって汚されていたか、どのような人物の仕業によるものか等を話し合い、それらを防ぐための方法を検討して報告せよ。
>
> 以上が諸君の任務である。スカウトとして誇りある行動を望む。　隊長より

この指令書（想定文）により、神社の場所を座標軸で示しておいて、スカウト達に渡してコンパスで、聖域まで安全かつ最短の距離を移動中し観察記録を作成隊長に提出せよ、ということです。

野帳の一線式でも二線式でもいいです。野帳を書いて、ルートを自分達で決めないといけません。野帳を書いて、そこに着いたら 1 時間掃除をして綺麗にするのです。綺麗にした後、その拾ったゴミとか、落書きとかを消したら、誰がこの落書きを書いたのか、誰がこのゴミを捨てたのか、観察と推理をします。

風船ガムの袋がいっぱい落ちていたら子どもだろうとか。エロ雑誌が捨ててあったら、どうもこれは中学生か高校生ぐらいかとか。色々そういうのがあるじゃないですか。それを想像して推理して、それを防ぐためにどうするかを考えさせる。

小さい子ども達だったら時々見回って「ここにゴミ捨てたらダメだよ」って言うとか。ゴミ箱に「ここにゴミを捨てましょう」と付けるとか。ゴミ箱が置いていなかったら設置していいかどうか。例えば、何々〇〇団でここにゴミ箱を置きました綺麗にしてくださいとか。ゴミ箱を設置すれば防げるのかとか。落書きをしないように、綺麗に紙を貼るとか、いろいろな方法をスカウト達が考える事が大事なのです。

＝プロセスを辿るプログラムを＝

いま行われているプログラムが一概に悪いというわけではないですが、隊長が子ども達を引率して子どもたちが何も考えることなく、ただ作業を子ども達にさせて自己満足的なプログラムで終わっているのではないでしょうか。

例えば隊長がスカウトスキルを知っていたら、地図の座標で示してその場所へ到達する方法を加えるなどを行い、子ども達にしてみたら単に掃除をさせられたと思うプログラムが、自分達が行って掃除をして何か人の役に立つことを考えることが出来たというふうに意識が変わると思うのです。

このようなプログラムを作って従来のスカウティングではやってきたのですが、いつの間にか、どういうわけか、あまり実施されなく特別隊集会的なものになっている。その言い訳を聞くと、班集会をしようにも人が集まらないとか、子ども達が来ないとか言っている。

この例示したプログラムなら一個隊、一個班でも出来ます。このようなプロセスをきちんと辿るプログラムを作らないとダメだということです。

《スキルトレーニング》

＝プログラムに転換できる企画力＝

全国のご意見を伺いましたら、指導者のスキルが落ちている。野帳の書き方を知らない、もやい結びが出来ない、シルバコンパスの使い方を知らない、磁北線を引けない隊長がいっぱいいる、という噂を聞きつけましたので、それはいけないだろうということで、『スキルトレーニング』というのを作らせていただきました。

スキルトレーニングの中のスキルが身に付いていたら、それでいいのかということではありません。それを活用して、プログラムに転換できる能力がないとダメなのです。企画力です。

ただ単に、神社の掃除をするというプログラムを作るのと、地図とコンパスとボーイスカウトは観察や推理が必要だということが分かっていたら、例示にあげたようなプログラムに変換することが出来ます。

それを、想定文に書いて子ども達をその気にさせる。つまらない神社の掃除をワクワクしてやれるようにする。それがどんなものが落ちていたか推理と観察で、誰に対して、どんなことをすればこういう汚される事がないのかということを考えて実践する機会、奉仕活動にする機会を与える。神社というのは綺麗にしておくものだ、この地を守ったものだというような、ちょっとしたキーワードから信仰への導きをしていく、というような様々な発展をさせることが出来るわけです。

このようなプログラムを作ろうと思うと、指導者が一定のスカウトスキルと、いろいろな素材を組み立て組み合わせして一つのスカウティングのプログラムを作れる事が必要になってくる。

スカウティングが野外活動をやるのは当たり前なので、わざわざ取り立てて言うことじゃないのです。

何故かと言うと、スカウティングは斥候術ですから色々偵察に行かないといけない、どうしても外に出ないといけない、フィールドでやらないといけない遊びです。当たり前のことなのです。スカウティングをやるためには自然に野外活動をしないといけないのです。

例えば、キャンプをした後、皆さんキャンプ地に残すものは感謝のみと教えられたことがあるでしょう。ゴミとか置いておいたらいけないのだと子どもたちに言っていますが、敵に、自分達は斥候隊ですから、焚火の跡とか、足跡とかを見て、敵の勢力を推察して、戦の作戦の立案に使うわけです。そうしたら、自分達が痕跡を残していたら同じことをされるわけです。だから痕跡を残したらいけないのは、偵察の鉄則なんです。この偵察隊の鉄則を逆手にとって訓練をしていくことによって、自分の家でも地域でも、ゴミを見たら気になってしょうがない、だから綺麗にしようという子どもに育っていくのです。

キャンプに行った時に、各班は自由にサイトを決めて隊長にだけは言うこと。どこの班がどこにテントを張って、それが３回移動してもいいとか。それをどこの班が、どこでサイトを張っていたか当てるハイキングをするとか。ハイキングとキャンプを組み合わせて３泊４日ぐらいで遊べます。

例えば、シロクマ班は一人２８cmの足のでかいのがいるからでっかい足跡があったらシロクマ班の跡だ、とかでも遊べますよね。遊び方なんかでも斥候術というのを頭の隅っこに置いておくと、プログラムというのは何も偵察ごっごばかりしておけというわけではないので、色々遊び方はあります。

≪事例≫

私の所の団のボーイ隊長が私に「団委員長、この日ヒマ？」と言って、日曜日の昼２時頃から３時頃まで道端にボーイ隊の指導者がテントを張ってテーブルとコップを２つ置いて、クレーンの炊事場を作りそこに炭を入れておいて、僕にそこで本を読んでおけと言うのです。

ハイキングの途中なのです。そこへコソコソとスカウトが忍び寄って来る。１分間だけ、１分間だけと言ってるのだけど、全然忍びになってないなと思いながらボショボショと言って、１分経った、１分経ったって行くのです。また次の班が来るのです。今度別の方向からコソコソっと来るのです。何をやっているかと思って後で見に行ったら、いろんなハイキングをやっていて、僕がいた所は「おっさん一人いただろう、おっさん一人いたけど、あのキャンプサイトは何人でキャンプをしていて、何泊するのかというのを推理せよ、その理由は何か」というのが課題なのです。

コップが３つあったから３人だとか、あのコッフェルは８人用だから８人だと主張するスカウトもいるみたい。でもあのテントは３人用のドームテントだから３人しか泊められないとか班で相談して、２泊３日、３人のキャンプとかいう答えを出して、それで当たったか、外れたかという協議をするのですけれど、そういったプログラムも作れますよね。プログラムそのものが、ちょっとしたスキルを活用して、スカウト達が

ワクワクするようなプログラムにしてもらいたいなと思っています。

＝「アウトドアチャレンジ事業」での事例から＝

新しい指導者訓練体系での中で「スキルトレーニング」を作りました。これを最初発表した時には、とある県連の県コミッショナーはカブやビーバーの指導者にもやらせて課すのか、カブやビーバーの指導者がこんなことをスカウトに教えることはないじゃないか、ということをおっしゃいました。

私は何もカブやビーバーのスカウトに、このスキルトレーニングの項目を教えろとは言っていない。指導者が身につけておけ、と言っているのです。

日本連盟地域貢献委員会が主幹でやっている「アウトドアチャレンジ事業」というのがあります。

スカウトじゃない子ども達を対象に初級とか中級の野外力検定を行います。手旗とかロープワークとかもあるのです。アウトドアチャレンジに来た子ども達でユニフォームを着ていない子どもがスカウト技能を学んで、ユニフォームを着ている子どもがスカウト技能が出来ない。ましてやユニフォームを着ている指導者が、世間一般から見たら、ビーバーの指導者、カブの指導者かは分かりませんからね。ボーイスカウトに来ている人は、みんなボーイスカウトだと思っています。ビーバーオンリーの指導者の方でも、カブオンリーの指導者の方でも、やっぱりスカウトスキルを身につけておいてもらいたい。

このスキルをちゃんと身につけておいていただければ十分活動に役立ちます。例えば、エコロジーパークの地図を作る。あれはビーバーでも作れます、ビーバースカウトの方が素直に作ります。エコロジーパークがこういう形をしているとすれば、白い紙に「今ここにいます」と。ずっと歩いて行って、見たものを帰ってきてあった所に書くと。そして略図を作らせるといろんなものを見つけて書き込みに来ます。

これは観察力を少し小さい間から養っていく。観察したものを図面に落とすという作業。できが良かろうが悪かろうがどうでもいいのです。見たものを図面に落とすという作業。それを、例えば指導者がその地図のことを良くご存じでしたら、距離感とかいうのも距離読みとか、木の高さを読んだりして、この木は何メートルあるのよと、ビーバー達と話が出来ますね。

＝ビーバースカウトたちは＝

ビーバースカウトの子ども達というのは、道端に落ちているものに興味を持ちますね。歩いていたら。僕の宝物と言って、ポケットに釘やらなんやらいっぱい入れて。「汚いから捨てな」などと言わず全部拾って帰らせるのです。そして白いでかい紙に２本線を引いておくのです。一緒にピクニックをして、拾ったものはここに書きましょう。道の右側で拾ったものは道の右側に書きましょう。道の左側で拾ったものは左側に書いて、誰が拾ったか書きましょう。何があったかも見つけて「あっ」と思うものがあったら、ここに草がはえていたとか、花が咲いていたとかいうのも見つけたら書きましょう、と言って僕はこれとペンを持って後ろを付いて歩いている。で、隊長何か見つけたよ、とここに書きに来る。

帰って保護者に、これ今日１キロ半ほど歩いた時の観察記録です。拾ったものの名前がここに書いてありますから、お母さんこれちょっと覚えて帰ってポケットの中と見つけたものをチェックしてあげてくださいって。

「なんでこんな汚いものを拾ってくる」と言う親もいますが、子どもはこういうものに興味があるのです。ゴミを拾って帰って申し訳ないけれど、ちょっと見てあげてください。見つけたものを拾って、どっち側で拾ったかということを書くことによって、そういう感覚が養われていきます。

これがカブスカウトであれば、コマ地図によって歩くとか、地図に線を引いておいて、その線の所を歩いて行くゲームやどこかに何か隠されている簡単な観察ゲームをするとかができます。

≪事例≫

私の所の隊では、地図を描いておいて、コーナーのどこかにピッとぶら下げてある自転車の部品の名前が書いたカードを探し出す。古い自転車バラバラにして、３組ありますから３台バラバラにしておかないといけないから指導者大変です。帰ってきてカードに書いてある部品をもらって自転車を組み立てるというゲームをする。このような地図のハイキングと自転車を組み立てるハイキングを組み合わせて行う。

子ども達が言いましたけどね。自転車組み立てるハイキングより、その道自転車で走った方が早いんじゃない。

このように、色々ちょっと捻ったもので面白いプログラムを作っていただきたいと思いますので、スキルトレーニングをビーバーの指導者にもカブの指導者にもお願いをすることにしました。

面倒かとは思いますけれども、何もわざわざ研究会に行かないと学べないということではないのです。ボーイ隊長さんだったら班長訓練で地図を教えているところにトレーナーに来てもらって、トレーナーにサインをしてもらえばいいのです。そんな厳密なものを求めていません。

なんかえらいハイレベルなことを研究されて、今まで技能重視のことを虐げられてきた技能派のトレーナー達が急に元気になって、難しい事をやらそう、やらそうとする。そんな難しい事をさせなくても小学６年生から中学２年生の子がやるレベルで出来たらいいのです。

手旗でも構いません。ある程度打てて、ある程度２０文字の文字が打てればそれでいい、ということです。だから一定のレベルで学習していただいて、後でまた自分の好きな技能についてはしっかり磨いていただくことは良いかなと思い、その様にお願いしたいなというふうに考えております。

スカウティング誌１１月号２５頁にスキルトレーニング履修項目一覧表が掲載されています。またスカウティング誌７月号の１９頁にスキルトレーニングについての意図を掲載していますので、是非再度お読みいただきたいと思います。

＝子ども達が興味を持つようにどう仕向けるか＝

いずれにしましても、スカウティングそのものがスカウティングさを失っているから、その面白味というのをなかなか今のスカウトの子ども達が、自分の友人達に言わない。ボーイスカウトで子ども達に「仲間連れてこいよ」と言ったって、自分が面白いと思っていないものに仲間引きずり込むほど無責任なことはしません。

子どもは結構大人ですから、大人よりも大人的な考え方をします。こんな面白くないし、隊長に抹香くさい話を毎日聞かされるのに、なんで連れてこないといけないと思う。面白い事をやっているとか、ワクワクするような活動をやっていれば、自分が参加したいと思います。

≪事例≫

斜面の下にある１００キロの石を３０メートル上の斜面に持ち上げる、それだけ。一か月後、その競争をする。各班でどうやって持ち上げるか考えておけ、必要な材料を言ってくれれば隊長が用意する。面白いですよ。

班によってはみんなで持ち上げるからと筋トレする班もあるかもしれない。隊長としての正解は、上にやぐらを組んで滑車でロープ垂らして１００ キロぐらいだと班員が５、６人ぶら下がればバランスを取って上がりますから、こういうやぐら組んでここに滑車下げて１００キロ重りを作るのに、コーヒー豆の袋を手配するとか、ロープを編んでガラス球にロープをかける方法などもあるでしょう。

ロープで上に上げて滑車で引き上げる、滑車も二段滑車使うとか、これは考えたらできますよね。

中学２年生だから「こうするんだ」と言ってやるよりも、「君らがするのはこの１００キロの石を３０メートル上に引き上げるだけ、来月の隊集会はこれだ、各班で競争、方法は自分達で考える」。これ考えますよ。

ひょっとしたら小学６年生ぐらいの子が滑車で上に上げたらいいと言うかもしれない。それ採用、となるかも分かりませんね。

だからスカウティングというのは、もちろん班長がキープするのですが、時期もあります。９月上進隊だったら、それまでにちゃんと訓練をしていれば６月７月くらいになったらこれくらいの課題を課しても出来ます。

スカウト達が考える工夫をして、考えるプログラムをやればよいのです。子ども達のニーズにそんなのがないからという意見もありますが、ニーズがなくても子どもたちはどうしたらいいんだろうと思った時点で興味を持ちます、だから興味を基盤として、興味を作り上げだしてあげればよいのです。

興味を作りだすということにはいろんな方法があります。ニーズ、ニーズって今までコースで言い続けてきたのが僕はちょっと失敗だったのかなと思っています。子ども達が興味を持つようにどう仕向けるかというところが大事だと思っています。

＝「ヤーン」は船乗りの“ほら話”＝

「ヤーン」というのがありますね。ヤーンというのは、信仰奨励のためのスカウトヤーンという本が出たので、スカウトヤーンというのは信仰奨励をしないといけないように勘違いをされていますが、ヤーンというのは元々は船乗りのほら話という意味があります。

大航海時代なのかイギリスの植民地政策の頃なのか分かりませんけれども、いわゆる海の男たちが港、港でいろんな情報を仕入れたものを帰ってきて伝えたのです。

その時に、自分の自慢話もしたでしょうし、ほら話もしたでしょう。それを転じたら指導者が自分達が若い頃にやって面白かったプログラムの話とか、英雄の話とかそんなのをヤーンでしてやっていただければいいんじゃ

ないかと思います。そうしたら、ニーズの刺激は出来ますよね。
　ずっと信仰の話ばっかりしていたら、子ども達も息が詰まってしまいますから。是非、自分達が体験したことを、やりたかったこと、やってみたいこと、こんなこと出来るのだよ、こんなことやったら面白いのでは、という投げかけを是非ヤーンとか、いつでもいいですから子ども達に大人としての体験。それで彼らに面白いなという話をしてあげていただければいいなと思います。
　プログラムの企画は、カブの場合は保護者や地域の人達に知恵を貸してもらうプログラム委員会という仕組みがありますけれど、ボーイは班長達がやるのですが彼らは体験した経験則からは出ませんから、こんなこと出来るって隊長が前に話していたあれをやってみたいとかというようなことでも十分いいと思いますので、興味の基盤としてはプログラムの企画は、隊長はどこかで仕掛けとして刺激しておいてやらないと、「何やりたいか言え」と言ったら楽なキャンプとか、寝てたら飯が食えて、適当に過ごせるキャンプがしてみたいとかしか出てきません。

＝クリック富士にならぬよう＝

　先ほど各プログラムの発表を聞かせていただき、正直申し上げて基本的な原則的なものについてはかなりご理解をいただいていることが分かり北海道連盟の皆様方、指導者の皆様方の意識の高さに驚きました。願わくは、もう少し子ども達が参画できるプログラムにするにはどうしたらいいのかお考えいただくと良いと思います。
　例えば、ボーイとかベンチャーの場合は彼らが考えたプログラムに指導者が加筆することがありますが、彼らが自分で思いついたかのように思わせないとダメなのです。彼らが自分で思いついたかのようにアプローチして、「お前うまいこと考えるな、なかなか面白いゲームだよ」って、自分が考えたゲームをさも彼らが考えたようにもっていくようなアプローチが大事です。それは班長達が隊運営に参画したと思わせる。
　ベンチャーなんかも特にそうですね、彼らは自分達でやったと思わないとやりませんからね、やったような気にさせるのです。こうしたらこんなことするの、こういうふうにしたらどうっていうのを上手に話をして、彼らにアプローチをします。
　近年、富士スカウトのレポートを見てみますと、中には立派なのもあるんですけど、ネット富士というのが多いですね。インターネット情報で調査研究終了。自分がしたのはクリックだけ。現実にこのようなのが富士で挙がってきているのですよ。ただ、隊長がそれで良し、と言っているものだから県連として蹴れないで、あとで隊長には県コミが注意をしています。スカウティングは実践躬行だけど、そこまで行っていません。
　ある県連での話しですが、コンビニのおにぎりの味を比較調査した。サークルKのおにぎりと、サンクスのおにぎりと、ローソンのおにぎりと、セブンイレブンのおにぎりと、それも色々何種類あるのですね。おかかとか、たらことか、鮭とか。それを表に作って、辛かったとか、甘かったとか。ここが一番おいしかったとか。これがベンチャーのプロジェクトですか、ただ単に、コンビニのおにぎりを買ってきて食い比べただけの話です。

≪事例≫
　本来、ベンチャースカウトのプロジェクトというのはそうじゃないですよね。例えば、全国の地方のお婆ちゃんの塩結びの味に一番近いのはどれだ、とか。各県連の指導者に辿ってもらうなりして、街を歩いてでも構わないから、お婆ちゃんの塩結びを地域に行って握ってもらう。移動キャンプで。こういう調査をしていますと、７０歳くらいのお婆ちゃんの塩むすびが食べたいんですと言ってその塩分濃度を調べて、どの地域が一番塩分濃度が濃かったとか。その生活に密着している状況を調べる。
　例えば、私は奈良ですから、吉野で杣人（そまびと）と言って木工の木を切る人、木こりさんだったら濃い味のおにぎりを持ってくるのですが、同じ杣人のおにぎりでもどう違うのか、杣人はどういうお弁当を持っているとか、そういう調査にしろよ、という話ですね。
　コンビニのおにぎりはないでしょうと。移動半径１キロですよ。買いに行くだけです。それはやっぱり違いますね。自分のアクティビティ、アクションで自分が何かを調査することを考えてもらいたいなと思います。

≪事例≫
　港の近くにお住まいの方いらっしゃいますか。港に行ったらワイヤーロープ、アイスプライスしてあるのを見たことありますか。ワイヤーのごっついの、あれはどやってするんでしょうね。こんな太いワイヤーを

三つ編みして、アイスプライスで組んでいますよね。うちのベンチャーが海に行った時、「隊長、あれはどうやって作るんですか」と言うから「知らん、自分で調べてこい」と言ったら調べに行き究極のロープワークというレポートを書いていました。

直径３０ センチのやつ３本編んで、それをアイスプライスした。すごい技ですね。住友金属が作っていたのが分かり、和歌山まで行って調べてきました。そういうものに興味を持とうと思うと、ロープワークを知っていないと興味を持たないです。

そういうふうにスカウトスキルだって、スカウトスキルの本当に好きなことをしっかりやっていったら、例えば簡易計測法でも、今度は本当に測量のメガネを使って測量はどうするのか、あの機械は中身どうなっているのか、とかということから建築に興味を持っていくとか。それはやっぱりベンチャーへのプログラムの展開ですから、ぜひボーイの時にスカウトスキルとか、スカウトのプログラムをしっかりとやっておかないと、ベンチャーに行った時にクリック富士になってしまうということなのです。

《まとめ～スキルトレーニングへの取り組みを》

まとめと致しましては、ぜひスキルトレーニングに取り組んでいただきたい。

新指導者訓練体系での２泊３日のウッドバッジ研修所をやっていただいてありがとうございました。

今回は野営生活を課しておりませんので、どうぞ各団におかれましてまた県連や地区が主催される野外活動の研修会に参加されるとか、自隊のボーイ隊などのキャンプに参加されてキャンプ生活とは一体何か、何のために点検があるのか、朝の点検と夜の点検の違いは何なのか、雨の時のテントの処理はどうするのか、乾燥はどうするのかということなどについて指導者のためのスカウトキャンプというのを行い、自己学習と実戦で身につけていていただきたいなと思っています。

研修所で３泊４日を過ごしても、私はテントもキャンプも苦手だからすいませんお願いしますと言って、他人が立ててくれたテントで、他人が作ってくれたごはんを食べて３泊４日の野外活動をしたと、堂々と出てくる人が多いものですから、思い切って止めました。

研修所から野営を外して大丈夫なのか、とよく言われるのですが、研修所で野営をやっていいかげんな野営をやった気になられるよりは、ちゃんとトレーナーに認定してもらった方がいいと思ったので、実はこちらの方は厳しくなっているのです。

ということで、スキルトレーニングをしっかりとやっていただいて、プログラムトレーニング課程、今までのウッドバッジ実修所というやつですが、５泊６日だったのが３泊４日の野営にしましたから、日にちが長いから行けませんとは言わせません。

研修所を出ているのですから、同じ日にちですので、参加できるはずです。ぜひウッドバッジ実修所を志し、まだ終えておられてない方は志を立てて参加してください。

実修所ではプログラムの企画に特化しています、徹底的に４日間プログラムの研修をします。先ほどから申していますようにスカウト達がプログラムをやっているのですから、ここのプログラムが悪かったら、県連とか地区とか日連があったってしょうがないのですよ。スカウティングは各団・隊でやっているのです。

近所の方が、ボーイスカウト面白そうだな、良さそうだな、子ども達のためになるなと思うのは、この子ども達の活動とか指導者とか団の人達を見ています。現場のスカウティングをきちんとやってもらえないと、スカウティングそのものに対する誤解が世間一般に広がります。ボーイスカウトと言ったら、大人同士がいつも揉めている団体だとか思われたら誰も入れませんよ。そういうことのないように、仲良く、楽しく、健やかにやっていきましょう。どうもありがとうございました。

質問：プログラムを充実させるために、団相互の連携やインストラクターの活用などを行えるシステムを作ってはどうか

講師：

同じ団だけの企画、隊長一人の企画力では２年経ったらプログラムがマンネリ化に落ちると私も思っています。そのためにまずはコミッショナーのご支援を得るということになるのですが、近年は標準隊を運営した経験のないコミッショナーが若手の中でそろそろ生まれてきているという現状です。

そういう意味ではスカウトスキルだけではなくて、様々な今体験するプログラムを充実させるため、インストラクターなども必要だろうと思います。

団委員の実修所というのを今年から新しく始めましたが、ここでは隊指導者をサポートするにはどうし

たらいいのかというのを基本的に考えていただいています。
　この中では近隣団とまず良い関係を築いて下さいということを、日本連盟として申し上げています。
　例えば私の団では隣の団と時々指導者を交換したり、指導者を派遣してもらったり、合同のプログラムで指導者を借りてきたりとか貸したりとか、僕が隣の団の班長訓練のインストラクターで行ったりとかということをしています。
　それは近くの団とやっぱり仲良くして、それぞれの状況をよく知って、「ちょっとあれ貸して」「彼をこの日貸して」と言えるくらいの関係を、まず自助努力でそれぞれ作っていかれるというのは効果としては高いと思います。
　スカウト達も班長訓練なんかで隊長も教えられるけど、「地図とコンパスの訓練で今日は隣の団の誰それ隊長に来てもらったからね」、と隣の隊長が来たら真面目に聞くとか、そんなことがあります。または技能を習得させる時とかだったら、ちょっと副コミに来てもらうとかどんどん活用されたらどうでしょうか。
　日連では、団委員の実修所においては近隣団との関係を密接にしていけというふうに指導をしています。これは何故かと言うと、隣の団がめちゃめちゃ評判が悪かったら私の団もあかんようになるのです。ボーイスカウト良くないよってうわさが広がります。こっちの団は指導者同士仲良くやっていても、こっちの団が指導者同士いつも揉めていたら、こっちの方を見た一般の人はボーイスカウトは揉めてばっかりらしいとなったら来ませんでしょう。
　だから仲良く、隣の団の内情をよく知っていろんな関係を結んでいくということは、自分の団の防衛にもなるのです。
　是非、今のインストラクターの話からきっかけにしてもいいし、訓練資材の貸し借りというきっかけでもいいし、なんでもかまわないので近隣の団、北海道の場合広いから分かりませんけれど、近隣の団といい関係を結ぶことが、まず今言っておられることを解決していく一つのスタートラインじゃないかなと思います。

≪全道研プログラム開発事例集　ホームページに掲載≫

　昨年１０月２０日～２１日に十勝エコロジーパークで開催しました「第５４回全道スカウティング研究協議会」での、プログラム開発事例集を北海道連盟ホームページに掲載しました。
　この事例集を参考、応用して、各団・隊での地域素材を生かしたプログラム開発に活用してください。

第１９回全国スカウトフォーラムに参加して

釧路第6団　ベンチャースカウト　佐藤　豊大

１１月２３～２５日の３日間、福島県国立磐梯青少年交流の家にて「第１９回全国スカウトフォーラム」が開催されました。都道府県の代表スカウト４３名＋７名のガールスカウトを合わせ、５０名のスカウトが集まる中、私は北海道連盟を代表するスカウトとして参加しました。

リーダーの指示で「できるだけ低額で!!」行こうということで、できるだけ飛行機や新幹線の利用を避け、行きは１１月２２日１９：０８釧路発～１１月２３日１２：３０猪苗代着と車中泊で列車を乗り継ぎ、帰りは仙台～苫小牧間はフェリーを利用しました。

スカウトフォーラムとは、全国各地区のベンチャースカウトが、共通のテーマに基づき皆で知恵を持ち寄ってよりよい社会を作るために設けられる場。つまり高校生の年代のスカウトがみんなで話し合いをする機会のことです。

今回は大きなテーマ「よりよい世界を作ろう」の下に　⑴「環境被害や自然災害について備える」　⑵「第２３回世界スカウトジャンボリー」　⑶「スカウティングとテクノロジー」　⑷「ちかいとおきて」の４つのサブテーマが設けられ、それらについて討議しました。

討議の方法は、あらかじめどのサブテーマについて話し合いたいか希望を取り、その上で全体を８つのグループに分けて、一つのテーマを２グループが担当し、討議を進め（分科会）その後各テーマまとめたものを全体で発表・意見交換（全体会Ⅰ）をし、テーマごと最終的なまとめをして、最後に全体で決議を採りました。（全体会Ⅱ）　簡略化すると、（分科会）→（全体会Ⅰ）→（各テーマ最終まとめ）→（全体会Ⅱ）という流れになります。

そして私はありがたいことに第一希望が通り、一つ目のサブテーマ「環境被害や自然災害について備える」について討議してきました。

話し合い以前に、たった一人で釧路から福島まで行って帰ってきたので最初は電車の乗り過ごしとか時間間違えなどが非常に不安でした。でもいざ行ってみると時間通りに行動でき、失敗もせずしっかりと行って帰ってくることができました。

また、高校一年生というベンチャースカウトの中で、下から二番目の年齢だったので、「全国にはもっと凄い猛者たちばかりいるはず、自分はその中でしっかり北海道の意見を主張できるだろうか？」と不安になっていましたが、それもいざ行ってみるとほとんどが高２生と高１生で、さらに思っていたよりも皆ラフな感じでした。中には「こいつ、できるッッ!!!」と思ったすごい人もいましたが、全体の雰囲気として自分の想像とあまりにかけ離れていて、正直疑問に思ったこともありました。しかし、却ってそのラフな雰囲気があったおかげで、討議を円滑に進めることができ、分科会においてはイニシアティブをとって発言することもできました。

ただ一つ残念であったことは、道産子ベンチャーの意見の結晶であった自然災害に備えた、「サバイバルキャンプ大会の実施」という意見を全国まで持っていき、なんとかして全国のアクションプランとして乗せようと努力したのですが、途中までは採用されていたものの、最終的には却下されてしまったということです。これは本当に悔しいです。

今回のフォーラムのおかげで、様々な考え方や意見にふれ、自分の狭い見聞を広めることができました。また、全国各地の友人を作ることもできました。今回だけの付き合いにせず、今後も連絡を取り合ってスカウティングを大きな規模で向上させたいです。

全国フォーラムは無事終了しましたが、私たちのフォーラムはまだ終わっていないのです。私は今回のフォーラムで採択されたものを道産子ベンチャーみんなにフィードバックしなければなりません。そのためには報告書などの文書も大切ですが、またアフターフォーラムなどで皆があつまり、感想・意見・改善点・次回に向けてなどのことを共有して、またそこから各地区へフィードバックすることができたらいいなと思っています。

新 春 弥 栄

2013 新春 誌上賀詞交換

“永遠のスカウト” をめざして

北海道議会
ボーイスカウト育成議員協議会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西6丁目 北海道議会内
TEL 011－204－5901

賀春

三指

私こと一二年来の病気のため、スカウトに何のお手伝いもできません

新年がスカウトのためにも皆々様方にも良い年であることを祈念いたします

弥栄

三浦 祐晶

北海道神宮

名誉宮司 原口 法義
宮 司 吉田 源彦

〒064-8505 札幌市中央区宮ケ丘４７４

明けましておめでとうございます
スカウティングの隆昌と
諸賢の御健勝を祈念致します

ボーイスカウト北海道連盟札幌第１団
カブ隊副長 小笠原 清行

仲間をふやそう

弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟札幌第２６団
育成会会長 望月 滌爾

北海道連盟維持財団　常任理事
北海道連盟　相談役
北海道スカウトクラブ　副会長

入部　道之

北海道連盟　参与
北海道スカウトクラブ幹事長
札幌地区協議会長
札幌第４団育成会副会長

川越　道生

スカウトの仲間を増やして
運動の拡がりを！！

北海道連盟　先達　顧問

三浦　武

赤平市

謹賀新年

スカウトの目線で活動しよう！
日本ボーイスカウト北海道連盟　理事長

長 岡 正 彦

日本連盟評議員　北海道・東北ブロック協議会会長

謹賀新年！
スカウトに尽くす組織・運営を！

日本ボーイスカウト北海道連盟
副理事長　前田　和道

謹賀新年！
スカウトに楽しいプログラムを！

日本ボーイスカウト北海道連盟
副理事長　下田　好徳

真狩での北海道キャンポリー
ご支援ありがとうございました

髙橋　直克

常任理事：プロジェクト担当

新 春 弥 栄

北 野　和

常任理事：スカウト担当

研修に参加してスキルアップを

池田　君松

常任理事：リーダー担当

新春弥栄！

北海道連盟地区選出理事　留萌地区委員長

三国　久介

北海道連盟監事
札幌地区副委員長
札幌第４団団委員長

北　秀継

新春弥栄！！

空知地区協議会

顧　問	三浦　武
地区協議会長	加藤　定幸
地区副協議会長	高山　敏晴
地区副協議会長	谷口　哲章
地区委員長	吉野　了乗
地区副委員長	高橋　直克
総務委員	田中　和光
総務委員	柿崎　誠
総務委員	山崎　信治
監　　事	吉野　裕
監　　事	内田　和夫
地区コミッショナー	飛鳥　慶子
副地区コミッショナー	吉田　淳一
副地区コミッショナー	水上　雄治
副地区コミッショナー	酒井　一夫
地区事務長	宮嵜　寿弘

謹賀新年！

北海道連盟

コミッショナーグループ

コミッショナー	扇間　康弘
副コミッショナー	今井　建
副コミッショナー	飛鳥　慶子

新春弥栄

ともに“光の路”を歩みましょう!

十勝地区　帯広第４団

団委員長	渡邊　伸夫
副団委員長	尾張　景
副団委員長	清水　義明

新春弥栄

真狩野営場をご利用下さい

札幌地区協議会

札幌地区委員会

謹賀新年

旭川地区協議会

顧　問	高橋　晃久
顧　問	野原　典雄
顧　問	川村　武雄
顧　問	森　　豊
地区協議会長	松倉　信乗
地区委員長	高橋　明
地区副委員長	山口　淳
野営行事委員長	山口　淳
リーダー委員長	町田　清
組拡広報委員長	由良　和喜
野営場管理委員長	天満　昇
財政委員長	仙座　猛
会　計	金澤　利寛
事務長	浅野　玲子
監　事	菅原　ユミ子
地区コミッショナー	村上　政義
副地区コミッショナー	宮澤　多佳子
副地区コミッショナー	西能　由理子
副地区コミッショナー	杉田　肇

あけましておめでとうございます

胆　振　地　区

―地区役員―

地区協議会会長	滝口　信喜
地区協議会副会長	熊野　正宏
地区委員会委員長	高橋　忠義
室蘭第１団　団委員長	高橋　忠義
室蘭第４団　団委員長	田中　洋一
登別第１団　団委員長	木原　靖之
伊達第１団　団委員長	辻　正博
苫小牧第２団　団委員長	永井　承邦
地区コミッショナー	村中　啓子
地区副コミッショナー	月館　良治
地区事務長	小笠原　貢
地区会計	佐藤　公英
地区監事	鷲沢　義則
地区監事	津田　和明

―北海道連盟役員―

地区選出理事	高橋　忠義
副理事長	下田　好徳
名誉会議議員	高木　康
相談役	高田　道夫
参与	大沼　勝美
参与	塩谷　眞守
参与	佐藤　公英
参与	西岡　浩
盟友	藤森　立城

事務局　〒050-0065
室蘭市本輪西町３丁目２２番１２号
電話・FAX（0143）55-2876

新年！弥栄！！

留萌地区

留萌第１団	団委員長	櫛井　二三夫
留萌第２団	団委員長	下田　満
秩父別第１団	団委員長	寺迫　公裕
羽幌第２団	団委員長	小寺　克彦
稚内第２団	団委員長	前田　義彦
地区協議会長		櫛井　二三夫
地区委員長		三国　久介
地区コミッショナー		小笠原　祐治

第５５回全道研でお会いしましょう

謹賀新年

ボーイスカウト
北網地区協議会
会長　桜田　正文

新春弥栄

札幌第９団
団委員長　樟本　賢首

謹賀新年

上川地区委員会

地区委員長　小西　恒
地区コミッショナー　佐々木　篤美

笑顔がいっぱい スカウトの絆

たどり着いたら　そこがスタート！！
おかげ様で篠路に移り10年を迎えました
札幌第10団　一同

平成２５年度　定型訓練開設予定

平成２５年度の定型訓練は、次のとおり開設を予定しています。

スカウトたちに豊かなプログラムを提供するため、年間予定に組み込み、多くの指導者や団委員の方々が参加されるよう要請します。

◇　**ウッドバッジ研修所**

コース	期日	会場
ビーバースカウト北海道第１６期	平成２５年6月２１日（金）~２３日（日）	札幌市内
ボーイスカウト北海道第４６期		
カブスカウト北海道第４７期	平成２５年１０月４日（金）～６日（日）	

◇　**団委員研修所**

コース	期日	会場
北海道第１２期	平成２５年１０月４日（金）～６日（日）	札幌市内

◇　**安全セミナー**

名称	期日	会場
平成２５年度北海道安全セミナー	平成２５年１１月１０日（日）	札幌市内

新加盟登録システム説明会開催

平成２５年度からの「新加盟登録システム」の導入に伴い、次のとおり説明会を開催します。

地区および団の「登録担当者」は必ず参加してください。

地区	月日	曜	時間	場所	会場
函　館	１月１９日	土	16：00～19：00	函館市	真宗大谷派本町支院
胆　振	１月２０日	日	13：00～16：00	苫小牧市	苫小牧市民会館
石　狩	１月２０日	日	13：00～16：00	苫小牧市	苫小牧市民会館
札　幌	１月１４日	月	13：00～16：00	札幌市	北海道連盟会館
空　知	１月２６日	土	10：00～14：00	滝川市	滝川市総合福祉センター
留　萌	１月２６日	土	10：00～14：00	滝川市	滝川市総合福祉センター
旭　川	１月１３日	日	11：00～15：00	旭川市	旭川市神楽公民館
上　川	１月１３日	日	11：00～15：00	旭川市	旭川市神楽公民館
北　網	１月１３日	日	11：00～15：00	旭川市	旭川市神楽公民館
釧　路	１月１２日	土	14：00～17：00	帯広市	帯広神社
十　勝	１月１２日	土	14：00～17：00	帯広市	帯広神社

◇◇◇◇◇　お知らせ　◇◇◇◇

≪１６ＮＪ参加確定申し込みは道連締め切り２月末日≫

２０１３年夏、山口県きらら浜で開催される１６ＮＪの参加者は、全道で派遣隊２コ隊編成するため、参加スカウトを募集しています。またＩＳＴ（本部奉仕）のベンチャースカウト、成人指導者の追加募集を行っています。確定申し込み締め切り日までに参加申し込みをしてください。

≪平成２５年度は地区正副コミッショナーおよび技能章考査員改選年度です≫

詳しいことは、別途連絡いたしますが、人選等の準備を進めておいてください。

斧の響き　１４５号（平成２５年１月１日発行）
発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟理事長 長岡 正彦
〒062-0934 札幌市豊平区平岸４条１４丁目３ 北海道ボーイスカウト会館内
Tel 011- 823-7121／ Fax 011- 814-9377　E-Mail bs-douren@bz04.plala.or.jp
北海道連盟公式ＨＰ　http://www.bs-douren.org/